

第29回卒業式

3月14日(日)に第29回卒業式が行われました。その中で、安雲和四郎校長は式辞として「いま、鍼灸師・柔道整復師それぞれに多くの問題をかかえています。これから臨床に携わる君たちは平坦な道ばかりでなく困難なことも数多く遭遇することでしょう。そんな時、この母校を思い出してください。学舎は常にあなた方を見守っています、いつでも帰ってき

てください。学校はあなた方の原点であり続けます。森ノ宮医療学園専門学校の卒業生であることを誇りとし臨床家として大成されることを願っています」という言葉を卒業生に送られました。



第32回入学式

4月4日(日)に第32回入学式が大阪国際会議場で行われ、今年度も約300名の新生が本校の門をくぐることとなりました。学校法人森ノ宮医療学園理事長の森俊豪先生から、次のようなお話がありました。

「最近よく耳にしますが、補完代替医療と呼ばれるものがあります。通常医療以外の民間療法や検証がまだ不十分ないろいろな治療法のことで、統計によれば、これら代替医療に費やす経費は、通常西洋医学の医療費をはるかに超えているそうです。大学においても正式に講座

が設けられ、いろいろな治療方法が科学の目を通して見極められようとしています。西洋医学が発達したとはいえ、次々に新しい感染症が出現したり、社会の環境変化に伴って患者さんの病態は既存の医学知識だけでは対応できないくらいに複雑になってきています。一方、社会においては、長引く不況の中、行政改革が進み、教育や医療現場にも大きな影響を与えています。そして、真に実力のあるものが選抜かれようとしています。こうした状況において、私たち治療家、そして今日ここに入学された皆さんは、伝統医学を引き継ぐ者として、長い年月を通し適応してきた日本鍼灸、あるいは日本固有の柔道整復術を受け継ぎ、かつ新しい時代に耐えるものとしてゆかなければなりません」

この言葉を胸に、新生は決意を新たに柔道整復師・鍼灸師への道を歩み始めました。



森俊豪 理事長

校友会学術研修会

6月6日(日)に第1回校友会学術研修会が森ノ宮医療学園専門学校にて開催されました。内容は、大阪産業大学助教授・中川晶先生が「バイオエシックス」についての講演、明治鍼灸大学名誉教授・丹澤章八先生が「患者さんとのコミュニケーション」についてのワークショップ(WS)でした。



中川晶 先生

丹澤章八 先生



「患者さんとのコミュニケーション」WSの感想

鍼灸学科1期 夜間部/藤川 直孝

「医療面接」という言葉を聞いて久しいですが、その実態とは問われるとよく分からなかったので興味津々でした。心の中にあるイメージを他人に正確に伝えることが、いかに困難なことかという実験を受講者も参加して行いました。

最初に発信者がスクリーンの後に隠れ、一方的に言葉だけで受講者に図形の配列を紙に書かせてみると、正解した人はごくわずか。今度はスクリーンを取り去り、発信者と受講者が顔を見合わせて相互に質問や意見を投げかけながら書かせてみると、ほとんどの人が正解しました。これらのことより互いに顔を見合わせ対話しながらコミュニケーションをとることの大切さを知り、私たちの日々の臨床で、この医療面接を行っていたことに改めて気づいた次第です。また、一方的な紋切り型の問診の羅列ではなく、胸襟を開いて(これを自己開示という)患者さんと向き合うことの意義を教えられました。



WSを担当して頂いた丹澤章八先生から、鍼灸を愛してやまない真摯な心意気をもってわかりやすくお話し頂き、先生に心から感謝します。